


教育研究評議会や各機関運営会議における外部委員からの意見の活用状況

○令和5年度

【国立歴史民俗博物館】



機構外委員からの意見等	活用状況
<p>○『研究報告』の内容をメールで広報してはどうか。 (第83回 運営会議)</p>	<p>○令和5年度の『研究報告』の完全電子化に伴い、 歴博リポジトリに搭載するとともに、 より広く広報するため、X(旧ツイッター)に ポストすることとし、令和5年12月12日、 令和6年3月29日にポストした。</p> <p>参考 https://x.com/rekihaku/status/1796013670205620671n/</p> 

【国文学研究資料館】



機構外委員からの意見等	活用状況
<p>○閲覧室の開室日について、現在は水曜日が閉室となっているが、遠方の研究者や学生などの利便性の観点から平日は毎日開室していることが望ましい。 (令和5年度第2回 運営会議)</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症発生前の開室状況に戻し、令和6年4月1日から月曜日～金曜日は、 9時30分～18時、土曜日は9時30分～17時に開室することとした。</p>

【国立国語研究所】

機構外委員からの意見等	活用状況
<p>○研究所のミッションに、「日本語教育」の記載がないことについて、来年度から日本語教師が国家資格となることを受け、日本社会において日本語教育が持つであろう重要性は飛躍的に高くなる。機会があれば、日本語教育への視野・観点を盛り込んでいただければ良いことにつながると思う。(令和5年度第3回 運営会議)</p>	<p>○ 外部委員の意見を踏まえたミッションを成文化し、研究所のウェブサイトにおいて公開した。</p> <div data-bbox="891 411 2027 721" style="border: 1px solid gray; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">ミッション</p> <p>国立国語研究所は日本語に関する学術研究の進展を牽引することをミッションとします。 そのために以下の取り組みを重点的に進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 言語研究のための高品質な言語資源の開発など、日本語・日本語教育研究のインフラ整備を大規模かつ組織的に推進し、利用を促進します。 ● 日本語ならびに日本語と関連する諸言語について、諸科学と連携しながら先端的な研究を実施して新たな研究領域を開拓し、国内外の研究ネットワークを構築します。 ● 言語資源開発や先端的研究によって得られた知見を大学院教育などによって次世代の研究者に継承させます。 </div> <p>参考 https://www.ninjal.ac.jp/info/aboutus/mission/</p>

【国際日本文化研究センター】

機構外委員からの意見等	活用状況
<p>○教員の採用について、教授と准教授、助教のバランス・男女比のバランスが悪く、改善が必要である。(令和5年度第3回 運営会議)</p>	<p>○ 従前からジェンダーバランス、若手雇用などを積年の課題として把握しており、「長期的な教員配置構想」を策定し、当該構想に基づいた採用をおこない、偏りの是正に取り組んでいる。令和5年度は、准教授1名、助教2名、特任助教1名(うち女性3名)を採用した。</p>
<p>○広報について、一般の人々にも分かりやすい、関心のある研究を通して学問の価値を知ってもらうことが必要である。(令和5年度第3回 運営会議)</p>	<p>○ 地域のステークホルダーとの繋がりや若年層への日本文化研究の成果発信に資するため、京都市及び京都市教育委員会や奈良先端科学技術大学院大学と連携協定を結び、積極的な広報につなげている。</p>

○今後の研究について、普遍性を持ったアジェンダを構築することが肝要であるため、優れた研究者を世界から集める必要がある。(令和5年度第5回 運営会議)

○優れた研究者を世界各国から受け入れるために、外国人研究員制度、外来研究員制度を引き続き活用するとともに、優れた研究者の育成という観点から、

- ・博士後期課程学生受入れのための「日研学術奨励賞」
- ・ポストドクター研究員受入れのための「JF-日研フェローシップ」(国際交流基金と共同)

を設立し、令和6年度から、海外からの若手研究者受入れを開始した。



【総合地球環境学研究所】

機構外委員からの意見等	活用状況
<p>○ダイバーシティ問題に留意すべし。(令和4年度第1回 運営会議)</p>	<p>○ 研究プログラム評価委員会委員について、令和5年度における任期満了による委員交代の際に、ジェンダーバランスを考慮した委員の選出を行い、委員間の女性割合が14%増加した。</p> <p>令和4年度以前 = 男性 10名 : 女性 5名 (女性割合 33%) 令和5年度以降 = 男性 8名 : 女性 7名 (女性比率 47%)</p>
<p>○運営体制について、経営推進部における IR 室とコミュニケーション室の役割を検討すべし。(令和4年度第1回 運営会議)</p>	<p>○ 令和6年度4月発足に向けて、経営推進部を含む改組を行い、IR室などの一部は所長直下に置くことで、様々な意思決定や必要な対応を迅速に行う運営体制を整えた。</p> <p>参考 https://www.chikyu.ac.jp/rihn/about/policy/</p> <div data-bbox="1400 1141 2016 1380" data-label="Diagram"> </div>

○令和4年度

【国際日本文化研究センター】



機構外委員からの意見等	活用状況
○「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」について、日本語で書かれている叢書を英語に翻訳し、発信することを記載してもらいたい。（令和4年度第4回 運営会議）	○ 運営会議での意見を踏まえて申請書を修正し、日本学術会議へ「学術の中長期研究戦略」に係る申請書を提出した。当該申請については、未来の学術振興構想（2023年版）（令和5年9月25日公表）に掲載された。 参考 https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-t353-3-16.pdf

【総合地球環境学研究所】



機構外委員からの意見等	活用状況
○ダイバーシティ問題に留意すべし。（令和4年度第1回 運営会議）	○ 令和5年4月以降採用の女性限定教授の公募を行い、1名の採用が決定した。 参考 総合地球環境学研究所 教授【女性限定】（2023年2月24日（金）17時必着）

【国立民族学博物館】



機構外委員からの意見等	活用状況
<p>○自己点検報告書の作成の際には、過去数年間の数値の推移がわかるようにするなど、もう少し網羅的な記述をした方が対外的に分かりやすいものになるのではないか。(令和4年度第2回 運営会議)</p>	<p>○ 本館の活動に関する様々な数値や指標を表やグラフの形で可視化した『みんなくファクトブック 2021』を作成しウェブサイトで公開した。</p> <p>また、対外的に分かりやすくという観点から、継続して見直しを行い、令和5年度に作成、公開した『みんなくファクトブック 2022』では、掲載項目の追加やデザインの改修等を行った。</p> <p>参考 https://www.minpaku.ac.jp/assets/pages/aboutus/opendoor/mfb2021_00.pdf</p> <p>参考 https://www.minpaku.ac.jp/assets/pages/aboutus/opendoor/factbook2022.pdf</p>

